

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教員養成特別コース
／江川 克弘

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

授業において、児童が主体的・意欲的に取り組み、理解も深化できるようなるような学習方法を創出し、その有効性を検証したいと考えている。

現在、そのような学習方法の候補の1つとして、先行オーガナイザーの理論を取り入れた「演繹的問題解決学習」という学習方法を創出している。今後は、この学習方法を教育現場で試験的に適用してもらい、問題点や改善点を検討してブラッシュアップしていこうと考えている。そして、そのように洗練した演繹的問題解決学習を再度教育現場で適用してもらい、児童の理解度や意欲的に取り組む行動を測定して、その有効性を検討していこうと考えている。

2. 点検・評価

「演繹的問題解決学習」の研究に関する参考文献が少なく、パイロットスタディの要素が強い中、「演繹的問題解決学習」の理論的考察をある程度行えた。小学校教育現場で「演繹的問題解決学習」を理科の授業で試験的に適用してもらったデータがいくつか収集できたので、それらを基に「演繹的問題解決学習」の理論を固めていっているところである。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

まず、受け持つ学生たちをある程度実践力のある教師に育てることが肝要であると考えている。そうすることによって、彼らが教師になったとき、鳴門教育大学大学院修了者は素晴らしい資質を持った人たちだと職場にいる人たちに思ってもらえ、大学院で学ぶ価値を実感してもらえと思うからである。

また、私は昨年度まで小学校で教師をしていたので、同僚を集めて勉強会を開き、私の知見や鳴門教育大学大学院での実践を紹介したいと考えている。さらに、教育支援講師・アドバイザー等派遣事業にも参加しているので、依頼があれば積極的に出向き、教育現場のお役に立ちたいと考えている。こうすることによって、教育現場にいる人たちに大学院で学んでみたいという意欲を喚起できるのではないかと考えている。

2. 点検・評価

受け持った大学院生の実習先の校長先生やメンターの先生から、授業実践について着実に授業が良くなってきているとお褒めの言葉をいただいたので、ある程度の授業実践力を身につけさせることができたと考えられる。また、昨年度まで同僚であった若い小学校教師に研究授業の指導案作成に関するアドバイスをを行った結果、研究授業が満足のいくものであったので、今後もアドバイスをしてほしいとの依頼を受けている。教育支援講師・アドバイザー等派遣事業については依頼がなかったため、実施できなかった。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

私の今までの小学校での実践経験と大学院博士課程での研究を生かして、実践力のある教師を育成していく。その際、理論と実践をつなぎながら教育現場で役に立つと推察される事柄に焦点化して説明していく。また、教育現場での実際の事例をもとに、学生たちに対応の仕方を考えさせるケーススタディを行う。

さらに、学生の教員採用試験対策(特に、模擬授業対策や面接対策)に積極的に関わり、1人でも多くの合格者を出したいと考えている。模擬授業対策や面接対策では、教育現場で必要とされる資質に関する細かな点についても指摘していきたいと考えている。

2. 点検・評価

実習先の校長先生やメンターの先生、あるいは学生自身の振り返りから、授業設計・実践について徐々に良くなってきたことがうかがえる。よって、学生に授業実践力を身につけさせることができたと考えられる。

また、教員養成特別コースで実施している教員採用試験対策では、P1・2合わせて3人の採用試験合格者を出すことができ、成果があったと考えられる。

また、すでに来年の教員採用試験に向けての勉強会(教員養成特別コースが実施)も開始しているおり、来年度はさらに合格者を増やすことができるのではないかと考える。

II-2. 研究

1. 目標・計画

昨年度まで小学校で教師をしながら、博士課程に在籍して研究をしていたので、今年度は博士論文を仕上げ、博士号を取得することが目標である。

夏くらいまでに博士論文を書き上げ、夏から秋にかけて昨年度まで所属していた研究科内の博士論文審査を受けようと考えている。そして、冬には公聴会を開き、来年の春には博士号を取得したいと考えている。

2. 点検・評価

今年度、博士号を取得できなかったが、大幅な加筆により、博士論文を充実させることができた。すでに、審査に入っているため、今年度には博士号を取得できると考える。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学教員として仕事をするのは初めてなので、教員養成特別コースの教員の一人として少しでも多くの仕事を分担できるよう、1年間の仕事の内容や流れを把握したいと考えている。特に、授業については他の先生方の授業を見せていただき、自分の授業の参考にし、授業を充実させたいと考えている。

2. 点検・評価

1年間を通して、大学・大学院の授業を観察したり、実践・省察したりすることにより、学生が理解できる授業のコツがつかめてきた。大学院で任せてもらった授業については論文にまとめ、紀要に掲載されている。また、大学院での授業を正式に分担できることが教授会で認められ、次年度からは受け持つ授業が増える。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

私は教員養成特別コースの教員であるので、附属小学校や実習協力校へ出向く機会が多い。そのような機会を積極的に活用し、実際の教育現場で起こる教育上の諸問題に対応したいと考えている。現場の先生方の話を聞き、現場の先生方や本学の学生たちと協力して実際の問題を解決する支援をしたいと考えている。特に、私は学習苦手児への指導(学習指導・生活指導両面にわたって)については実践も研究も行ってきているので、そのような問題については積極的に関わっていきたいと考えている。

また、教育支援講師・アドバイザー等派遣事業にも参加しているので、依頼があれば積極的に出向き、教育現場のお役に立ちたいと考えている。

2. 点検・評価

附属小学校の研究発表会の反省会に出席し、総括を行い、次年度の研究における授業方法についての提案を行ったので、貢献できたと考えている。次年度も、附属小学校の研究に携わっていきたいと考えている。

教員養成特別コースの実習においては、直接的に教育現場の問題に対応することはできなかったが、学生に対して児童への関わり方や指導の仕方(特に、学習の苦手な児童)について、細かく指導したので、現場の先生方のお役にたて、ある程度の貢献はできたと思う。

教育支援講師・アドバイザー等派遣事業については、依頼がなかったので実施できなかった。しかし、次年度はサポートする内容を増やしている。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)